

令和3年度  
第1回朝日地域振興懇談会  
会議録（概要）

期日：令和3年7月9日（金）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和3年度 第1回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和3年7月9日(金) 13時30分から15時50分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員 : 難波一彦、難波金一、亀井栄一、小野寺太、宮崎正、菅原正成、今野めぐみ、  
渡部祐子、渡部巖、小野寺信子、難波一之、遠藤恵子、宮崎ちよ 計13名
- 欠席委員 : 難波久男、伊藤比呂貴
- 市側出席職員
  - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、  
総務企画課 佐藤課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査、  
渡部専門員
  - 【本所】企画部政策企画課 白幡主幹(兼)若者・子育て世代応援推進室長、  
菅原主事  
企画部地域振興課 伊藤課長、熊田地域振興専門員 計10名

一次 第一

1. 開 会

※ 委嘱状の交付は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、名前の読み上げで代用

2. あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 会長・副会長選出

会長 : 難波金一氏 副会長 : 渡部祐子氏

4. 協議

- (1) 鶴岡市過疎地域持続的発展計画について
- (2) 育英奨学金から奨学金返済支援事業への移行について
- (3) 朝日庁舎の主要事業について

5. その他

6. 閉 会

1. 開 会 13時30分 (進行 総務企画課長)

2. あいさつ  
朝日庁舎支所長

3. 会長・副会長選出  
互選により、会長に難波金一委員、副会長に渡部祐子委員が選出された。

4. 協 議  
会長 それでは協議 (1) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明あった件について皆様から質問、意見頂きたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

委員 人口減少に伴って空き家が増えているが、そのまま放置され手を付けないということで雪が降ると壊れていくという状況である。倒壊して周りに被害が及ぶのではと思うが、対策は何かあるのか。

地域振興課長 鶴岡市の空き家について、昨年度、都市計画課で一斉調査を行った。詳細な集計はまだだが、市内には3,400~3,500軒の空き家が確認されている。それぞれ状態によってAからDにランク付けされており、調査には自治会長等から情報提供頂いたものも含まれている。空き家対策については、個人の所有する財産という事もあり、非常に難しいところもある。本来であれば所有者が管理をしっかりと行い、危険があれば解体するものであるが、現実にはできていないものもある。対策としては、「つるおかランドバンク」で空き家に対する相談を受けており、管理や解体、法的な部分に関するアドバイスを行っており、まずは相談してもらいたい。適正管理されていない建物で、危険な状態であれば、市で応急対応をする場合もあるが、その費用は所有者に請求することになる。解体については、環境課で補助金(鶴岡市危険空き家解体補助金)を出している。所有者ができない場合には、地域で行う際の補助(地域団体支援型)もある。今後も所有者の適正管理を基本としながら、地域で危ない建物があった場合は市の担当者までご相談いただきたい。

委員 スクールバスについて、毎年要望として挙げているが、市内一律のルールで運用しており、朝日地域に合わない部分もあるのではないかと。朝日だと距離だけの問題でなく、生徒数が減少して一人で下校しなければならないケースや、通学路付近にサルが出るなど不安な要素が多い。各学区にスクールバスの運行を任せるとはできないものか。バスの本数を増やすわけではなく、走っているバスを活用するわけなので配慮をお願いしたい。

地域振興課長 スクールバスの運行条件緩和について、他の地域でもそのような要望があると教育委員会から聞いたことがある。小学校、中学校の区分や季節によって一定の基準が

あるが、そういった要望を教育委員会に伝え、検討してもらいたい。

委員

①人口の推移の見方について、国の国勢調査の関係かH27のデータが記載されているが、5年もたった現状はもっと減っていると思う。計画が後追いにならないように、最新の人口に基づいて計画を立てることはできないのか。

②条件不利地域に生じる生活格差の是正という項目があるが、人口減少が進んでいる中での持続可能な集落形成はかなり難しくなっている。集落の維持について今後ますます困難になるのではないかと。特に昼間人口が減っており、高齢者が多い中で、集落道の維持など個人の税外負担が都市部から見れば相当な負担となっている。このような状況でも、持続可能な地域づくりをしていく中で、若い人に誇りをもって語れるような地域にしたいと思っている。また、過疎地にいると健康の問題が一番である。若い人がいない日中に、高齢者は元気であることが地域づくり、そして社会貢献になる。朝日地域は集落間が遠いので、常々の交通事業も、健康づくり事業も重要。鶴岡市では計画で健康増進法を基に行うとあるが、法律でどうこうではなく、もっと積極的に取り組んでほしい。

③診療所が2カ所あるが、地元の方の受診率はどの程度か。また、今後の活用の手立てはあるか。

地域振興課長

①について、昨年度の国勢調査の数値がもうすぐ出ると思うので、それらを反映させ、計画を毎年見直す中で更新していきたい。

②条件不利地域における集落対策のご意見はごもっともである。多岐にわたった対策を講じていく必要がある中で、集落支援員や地域おこし協力隊等の人の支援、地域づくり交付金などの活動の支援を活用しながら地域づくりをして頂きたい。また、集落規模が小さくなって、そのような活動がしばらくの場合は、周辺の集落同士で補完し合う事ができないかを考えることも一つの方法かと思う。

健康の問題は、可能性としてデジタルの活用が考えられる。例えば、温海地域の福栄では、ICTを活用した健康教室（サテライト方式）を試験的に実施している。医療については、タブレットを使って遠隔診療を試験的に行っており、うまくデジタルが活用できると条件不利な部分も解消されるのではないかと。

市民福祉課長

③手元に資料が無く、大まかな数字となるが、大網診療所が年間1,000人程度、上田沢診療所がそれよりすこし少ない位である。人口は上田沢の方が多いが、利用は大網の方が多い。人口減少や、介護施設に入るなどの状況もあって受診される方が減っている。診療所が午後の時間という事もあり、地域にいる方が利用している状況で、患者輸送バスを出している。利用者を増やすため、機会があるたびにPRを行っている。

委員

人口は減っているが世帯が減らないという状況があるようで、一人暮らしなどが増えているようだ。おたがいさまの精神で、市に公助をお願いする部分のほかに、自分たちでできる自助、互助の部分も意識してやっていく中で、その芽を育てるような方法で地域を守っていければと思う。

総務企画課長

朝日地域の地域振興計画を作成する中で話題となったのだが、一世帯当たりの構成人数が減っている状況があり、地域の草刈りや雪囲い等の社会活動が人手不足で維持が困難になってきているというのは把握している。一方、すべて自助で出来るわ

けではなく、かといって全て公助ではまかなえない中で、共助という形で、助けあい玄関除雪のような一部を市が支援する取り組みを試行的に行いながら、より良い地域づくりの方法を探っていきたい。

会長

過疎地域に住み続けるというのは雪や獣の対策など、環境の面で大変なものだ。朝日にいるのが嫌になってきたという声もある。若い人は、夜勤などの不規則勤務が進んでおり、早朝に出勤しようとしても雪がネックとなり、結局、市街地にアパートを借りるケースもある。その後、結婚したとしてもお嫁さんが市街地暮らしで雪道に慣れていないという状況で、実家で暮らすことを選ばず、親が年を取って動けなくなると、一家そろって市街地へ出ていく状況がうまれていることを知ってもらいたい。そのなかで、克雪が大変重要になってくるので、支援の在り方について検討し、厚く支援してもらいたい。交通機関について言えば、県道・市道の除雪のタイミングが違う場合があるので、出動基準の違いや県との連携はどうなっているか。冬季間の問題について、地域を出て暮らさなければならない状況が増えている状況を認識してもらいたい。

産業建設課長

除雪に関して、シーズン前に11月頃に各地域を回って意見交換を行っている。その際、日中除雪だけでなく、早朝・夜間の除雪も増やしてもらいたい等の要望が出ている。雪が多い日は、地域の方が暗いうちから除雪をして出かけていくという話を聞いており、苦勞していることを認識している。現在は、通勤時間までに何とか除雪を終わらせるという事を第一目標に、精一杯行ってもらっている。そして、除雪作業員の食事時間、休憩時間等を除いて、除雪の必要があれば昼夜問わず出動をお願いしているところであるが、作業員の睡眠時間も確保しなければならず、深夜0時に除雪してあるという状況はできていない。フル稼働でお願いした結果が今の状況であるという点をご理解いただきたい。ただ、今後も除雪の状況改善ができないか問題提起をしていく。

除雪の基準については、何時に何センチだったら出動という具体的な基準を業者に示している。担当の業者とところでの基準に達したか達してないかの判断が分かれることもあると思うので、タイミングが違った場合は教えてもらいたい。

会長

次に協議(2)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長

今事務局から説明がございました。皆様から質問、意見を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

委員

3年継続勤務とあるが、その間に転勤で県外に勤務先が変わっても良いのか。

政策企画課主幹

3年間継続勤務は条件であるが、会社の事情で転勤になり鶴岡に住んでられない場合、5年までは中断できるようにした。ただし、自己都合による転出は救済外となる。

会長

社会人枠で応募する場合、大学卒業後、例えば今年の4月に既に帰ってきた人や、

すでに社会人になって関東で働いていたが、春に帰ってきた人は対象となるのか。今県外にいる人が該当する。残念ながらすでに帰ってきた人は対象外となる。

政策企画課主幹 会長 了解した。それならば広報のやり方として、対象となる人が分かるように、また、帰ってくる前など間に合う段階で掲載してもらいたかったという話があった。それから、前の奨学金制度について利用者が減ってきていたと3月の会議で聞いた。貸付制度の際、宣伝はどのくらい行き渡っていたか。市の奨学金制度が日本学生支援機構とほぼ同じと言いながら、市の制度の利用が少ないのは、採択条件が厳しかったのではないかと感じている。ただ、この奨学金制度の基金は、東田川で始まり、長く人材育成してきた。旧市には元々無い制度であったので、この残金を元手にやる時点で、旧市も旧町村も公平に扱うというのは、ある意味平等かもしれないが、多少違和感がある。支援するのであれば、条件不利地の旧町村に住んでくれる人には厚くしてもらいたい。制度としてはありがたい制度である。

政策企画課主幹 歴史的な背景がある基金の成り立ちで、旧町村に厚くという意見があるのも承知している。ただ、今後も継続していける制度としていかなければならないと思っており、ご理解頂きながら制度を改善していきたい。広報で6月から募集して、親御さんの目に多く触れたおかげで90名くらい応募があった。朝日地域からも4名応募があったように、それぞれの地域から応募があった。基金からだけではなく、地域を応援する方、ふるさと納税や、人材育成として地元企業からも協力してもらいたい。地域みんなで若い人の地元回帰を応援しようという流れにしたい。

副会長 市の奨学金は、日本学生支援機構より使いにくいと考えていた。退職前に勤めていた職場の実習生に、地元に着してもらいたいと思って打診すると、通学している都市での奨学金制度を利用して、3年間その都市で働かなければならないということで、すぐには帰ってこれないと言っていたので、なぜ鶴岡で出来ないかなと感じていた。借りたいなと思えるような魅力がある制度にしてもらいたい。働く場の確保と奨学金がどう連携できるかが、若者が定着できるかの課題だと思う。

政策企画課主幹 日本学生支援機構と市の育英奨学金の違いは無いと聞いていたので、もう一度教育委員会に確認したい。

副会長 周知が足りないのでは。皆さんにわかりやすいような周知をするのは、大都市の方は発信力が強い。鶴岡市内は学びも限られているので、鶴岡の奨学金を知らずに、前述のように帰れない事例もあったので、これからは無いようにしてもらいたい。要項などの紙だけでは分からない。

政策企画課主幹 昨日の櫛引庁舎でも同じような意見があったので参考にする。

会長 それでは協議(3)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問を頂きたいと思えます。いかがでしょうか。

委員 森林資源について、大切にしなければならぬと思うが、返礼品への活用など具体的なものはあるか。森林荒廃防止事業についても説明してもらいたい。

産業建設課長 産地化事業としてまとめられているが、主なものとしては産直あさひグーで地元の特産品を販売しているが、お店まで持ってくるのが大変な方もいるので、生産者から集荷をしたり、市街地へ行って移動販売したりすることに対して支援している。それに加え、生産していても出荷していなかった産物について、補助金を出して販売してもらおう。広報で募集をして2件申込みがあった。

委員 2つ目の森林荒廃防止支援事業については、広葉樹などをきのこなどでうまく活用できないかという事で、森林組合に補助を出して活用法を検討してもらおう。

委員 産直に関わる生産者は年を取っているが、これからもやっていくので支援をお願いしたい。

委員 タイ国際交流事業について、直接交流できない状況で残念だが、昨年、1回目の派遣について市内から参加者を集めたとき、朝日地域からの応募が少なかった。自分も体験しているので、ぜひ朝日地域の出身者から行ってもらいたい。そのために、友好協会として朝日中学校で交流活動を予定している。

委員 周知は難しい。知らないともったいない。マッチングする方法があればよい。広報読んでいるが、字が多いと流し読みになってしまう。もっと市民に届くように知らせることができれば。

総務企画課長 行政として周知は課題となっている。朝日地域にはケーブルテレビもある。ほかに音声告知も行っている。一方で若者はSNSなどICTを活用しているが、高齢者について、ワクチン予約の際、電話が込み合ってつながらない状況で、代わりにインターネットで予約ができるかということ自分ではできないなど、情報格差があることが分かった。

委員 また、反対に顔を合わせて初めて分かることもあり、若者語らいの場ありのまま未来プロジェクトは、SNS全盛の中で、あえて顔を合わせる機会として設けた。事業のPR含めて理解が進むようにしたい。

委員 若者をいかに定住させるか。庄内の高校生の就職率は県内で最下位である。卒業生を鶴岡の企業に就職させる、朝日の企業に就職させるのが大事。働ける場所の提供ができるかがカギ。地域の人が地域で働けるように、どのように業を起すか。その際、新卒者が語らうことのできる場を設けるなど、精神的な支援の在り方をお願いしたい。

委員 人口がずっと下がってきた要因がどこかにあるのでは。

委員 事業を展開していく中で経済的にしっかりとした給与が払えるようにしなければならない。どうやって人を呼び込んでいくか。地元の企業はどのようにして魅力づくりやっていくか。若い人への事業の中で様々な団体との交流が育てる。

産業建設課長 仕事が無いと定住できない。農業、林業等地元に仕事をつくるという事ができれば、行政の力でどこまでできるかという部分取り組んで聞きたい。除雪の仕事から大鳥振興企業組合ができたように、地元で地域の生活を支える産業があれば。まめに働

く地域性があるので、それを楽しみにつなげて、朝日に住んで良かったと思ってもらえるように。

#### 追加された庁舎改築事業について説明

(庁舎)

- 会長 防災拠点としての施設になるのか。従来の避難先が継続するのか。
- 総務企画課長 設計が始まっていない段階でまだ分からないが、スペースの関係で、司令塔としての防災機能は庁舎に置くと思うが、引き続き各コミセン等を避難所として活用していくと思う。
- 会長 各避難所との連絡をデジタル化してつなげる場合、補助電源などは各施設に整備するのか。
- 総務企画課長 具体的に各施設を追加整備する計画は今のところ持っていない。防災機能の中には双方向で会話できるイメージもあるので、これからの検討事項になる。
- 委員 建設予定地が川の脇だが、洪水にならない場所を想定しているか。
- 総務企画課長 洪水ハザードマップで浸水しない区域になっている。堅牢な地盤で水害の影響がない位置に建てる予定。

(その他)

- 委員 e-ではネットが民間移行という話があるがどうなっているか。
- 総務企画課長 朝日・榎引地域でe-ではネットのサービスを提供している。当初は、両地域に民間企業のサービスが未整備という事もあって市で提供し始めたが、施設機器の老朽化や、近年の高速通信化に対応できないという事情もあり、令和5年度末に廃止し、民間移行する予定。すでに榎引で移行し始めて400件ほどが完了している。朝日地域でも民間事業者（NTT）で光ケーブルを敷設中であり、令和4年度中には敷設完了という見込みという情報ももらっている。そして設備等の準備ができた段階でサービス開始となるので、それらに合わせて説明会などを行っていく予定。

その他 なし

(5. その他)

- 総務企画課長 他に皆さまから何かございますか。  
無ければ閉会のご挨拶を渡部副会長にお願いしたいと思います。
- 副会長 お疲れ様でした。これを持ちまして、本日の朝日地域振興懇談会を終わります。ありがとうございました。

(終了 15時50分)